
日本水大賞

2010 日本ストックホルム青少年水大賞

受賞者へお祝いの言葉

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第12回「日本水大賞」において、栄えある「大賞（グランプリ）」を受賞されました「特定非営利活動法人宍塚の自然と歴史の会」の皆様、心からお祝い申し上げます。

「宍塚の自然と歴史の会」におかれましては、1989年の発足以来、20年の長きにわたり、地域住民とともに宍塚の里山や大池及びその周辺の湿地において、下草刈りや外来種の駆除、休耕田を利用したビオトープの整備など、地道な活動を通じ、水循環系の健全化に寄与したことが高く評価されたものと伺っております。

河川環境の保全や潤いのある水辺環境の創造は、美しく魅力ある地域づくりのため、たいへん重要な取り組みであると考えております。

このため県では、河川環境に配慮した川づくりをはじめ、河川愛護団体への支援、県民とともに河川を活用した地域づくりについて考える「水際線シンポジウム」の開催などに取り組んでおります。

平成22年度の「水際線シンポジウム（第24回）」は、「宍塚の自然と歴史の会」の地元である土浦市で8月に開催することになっており、今回の大賞受賞によりますます機運が盛り上がるものと思っております。

今回の受賞を機に、「宍塚の自然と歴史の会」の皆様方が、今後ますますご活躍されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成22年7月1日
茨城県知事 橋本 昌

祝 辞

「第12回日本水大賞国土交通大臣賞」を受賞された香川県多度津町の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

雨が少ないうえに、山も浅く、大きな川もないことから、昔から度々渇水に悩まされてきた私たちの先祖は、満濃池をはじめ数多くのため池を築造するなど、水の確保に大変な苦労を重ねてきました。

多度津町の再生水利用計画事業は、このような香川にあって、さらに独自水源に乏しい町ならではの発想から生まれた先進的な取り組みです。住民の方々や水利関係者などのご理解と国の関係各省のご支援のもと、下水道再生水を上流に送水して農業用水や修景用水、河川の浄化など、多目的に活用するとともに、地元ボランティア団体などの協力を得て、良好な河川環境の保全や水辺環境の再生に努めています。

貴重な水資源だからこそ様々な用途に複合的に再利用するこうした取り組みが全县、そして、全国へと広がっていくことを大いに期待しています。

香川県では、節水や水循環の促進を重要な施策と位置づけており、今回、受賞された多度津町の皆様のご努力に心から敬意を表しますとともに、引き続き、水辺環境の再生と安らぎのある町空間の創造にご尽力いただきますようお願いいたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成22年7月1日
香川県知事 真鍋 武紀

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第12回日本水大賞の「環境大臣賞」を受賞されました「岐阜・美濃生態系研究会」並びに「奨励賞」を受賞されました「岐阜県立恵那農業高等学校」の皆様、誠におめでとうございます。

岐阜・美濃生態系研究会のこのたびの受賞は、絶滅危惧種に指定されているウシモツゴの大量繁殖・野生復帰に長年にわたり尽力され、これに成功し、加えて「何故、希少生物の保護が大切なのか」を長期的に説明・教育・啓発するなど持続可能な地域を形成する活動が高く評価されたものとお聞きしております。また、岐阜県立恵那農業高等学校のこのたびの受賞は、阿木川ダム貯水池における空芯菜栽培による水質浄化に加え、栽培管理・流通・加工までを地域住民の皆様と協働して行うなど、水質保全の意識向上や地域活性化に繋がる活動が奨励されたものとお聞きしております。このような皆様のご活動に対し、あらためて深く敬意を表する次第です。

岐阜県は古くから「飛山濃水」の地と呼ばれ、豊かな森から流れ出る水は、清らかな川の流れてなって田畑を潤し、様々な生き物をはぐくむことで里の人々に豊かな恵みを与えています。

岐阜県では、先月河川で開催する初めての大会として「第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～」を開催し、森・川・海が一体となった自然環境の保全の重要性について広く全国へ発信したところです。緑あふれる山野、清らかな水辺を守り、次世代の子どもたちに引き継いでいくためには、人と水との共生について全ての人が考え行動していくことが重要であり、両団体の受賞をひとつの契機として、こうした取り組みが大きく広がっていくことを期待しています。

最後に、受賞者の皆様方の活動が今後ますます飛躍・発展されますよう心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成22年7月1日
岐阜県知事 古田 肇

祝 辞

琵琶湖市民大学の皆様、「第12回日本水大賞厚生労働大臣賞」の受賞、おめでとうございます。

今、琵琶湖では外来魚の増加、カワウの大量繁殖、南湖を中心とした水草の大量繁茂、北湖底層部での低酸素化などの課題を抱えています。

琵琶湖市民大学におかれましては、1984年の「琵琶湖淀川汚染総合調査団」結成以来、琵琶湖・淀川流域の環境保全を目指し、水質調査や水上バイク調査、さらには講演会・学習会の開催など、様々な活動を行ってこられました。特に、琵琶湖の恩恵を感じにくい地域の住民に参加いただくといった広範囲での取組は、水源のみならず漁業や自然資源としても大切な琵琶湖の生態系や自然環境についての興味を深め、環境保全への意識向上を図るうえで、大変意義深いことだと思っています。

今回の受賞は、こうした皆様の着実な活動が高く評価されたものであり、滋賀県といたしましても、今後の活動に大きな期待を寄せています。

結びに、琵琶湖市民大学の皆様のこれまでの活動に敬意を表しますとともに、今後益々の発展とご活躍をお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成22年7月1日
滋賀県知事 嘉田 由紀子

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

国立明石工業高等専門学校 建築学科 工藤研究室の皆さん、「第12回日本水大賞農林水産大臣賞」の受賞、本当におめでとう。

今回の受賞では、ため池文化の掘起こしや環境保全活動が、地域の人々の意識を高め、ため池再生に大きく貢献するものとして、高く評価されました。意欲あふれる活動に、心から拍手を贈ります。

全国で最多のため池を有する兵庫。江戸時代から地域の農業を支え、人々の絆を育み、多くの動植物が生息する場になってきました。しかし、農業の担い手の減少などにより維持管理が十分に行えず、その環境や機能が脅かされています。

今こそ、先人から受け継いだため池を、地域の貴重な財産として生かしていかなければなりません。兵庫県は、ため池の防災パトロールや改修、クリーンキャンペーンなどに取り組んでいます。また、県内各地で「ため池協議会」が設立され、さまざまな取り組みが始まっています。

それだけに、工藤研究室の皆さんが自ら考え、議論し、多くの人々と協力しながら、ため池の保全・再生に取り組まれていることは、本当にすばらしいことです。

未来を拓くのは若い力。これからも、夢と目標をもって、果敢にチャレンジしていかれることを期待しています。頑張ってください。

平成22年7月1日
兵庫県知事 井戸 敏三

鈴鹿高等学校自然科学部 日本水大賞 文部科学大臣賞受賞知事祝辞

「鈴鹿高等学校 自然科学部」の皆様、この度は、「第12回日本水大賞文部科学大臣賞」の受賞おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

今回の受賞は、鈴鹿川全流域を活動範囲として、東海地方の固有種である天然記念物のネコギギのモニタリングを中心とした研究活動を行い、貴重な発見をされたこと、また、その研究成果の各方面への発表や講演、地域住民に対する展示などの啓発活動をOBも含めた学生が活発に行っていることが高く評価されたものとお聞きしています。

ネコギギは現在、三重県内でも5水系でしか確認されておらず、鈴鹿川水系も絶滅の危険性が極めて高い状況にあります。こうした中、地域の方々が川に興味を持ってもらうため、若い世代が主体となって、次世代を担う小学生やショッピングセンターの買い物客などにアピールしていくことは非常に有効な活動であると存じます。鈴鹿高等学校の活動を機に、ネコギギをはじめとする水辺の生物と河川環境を守る活動の輪が広がり、地域が一体となった生物多様性の保全活動へ発展していくことを願います。

今回の受賞を契機として、今後ますますご活躍されることを祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

平成22年7月1日
三重県知事 野呂 昭彦

受賞者へお祝いの言葉

祝

辞

「鶴見川流域ネットワーク」の皆様、栄えある「第12回日本水大賞」の市民活動賞受賞、誠におめでとうございます。

鶴見川流域では、水が「行政区画」ではなく「流域」という単位で循環していることに着目して、水循環系の課題は流域内の自治体や市民等が協働して解決にあたる必要があるとの認識のもとに、平成16年8月に国と流域の都県市による「鶴見川流域水マスタープラン推進宣言」を行い、具体的な取組みを開始しました。

鶴見川流域ネットワークの皆様は、市民団体・企業・行政との多元的協働を通じて、子どもたちへの学習機会の提供や次世代の指導者の育成などの実践活動を行っており、その活動は広く流域住民の理解を得て深化・拡大しています。今回の受賞は、行政区画を越えた皆様の活動が市民活動の手本であることが高く評価されたものであり、大変うれしく思っております。

流域の自然環境と人間の諸活動が共存する持続可能な流域社会の実現を図る皆様の活動の意義は大きく、県といたしましても、今後の活動に大きな期待を寄せています。

今回の受賞を励みに、今後ますますご活躍されることをお祈りいたしますとともに、活動を支えてこられた関係の皆様のご尽力に心から敬意を表しまして、お祝いの言葉といたします。

平成22年7月1日

神奈川県知事 松沢 成文

祝

辞

「第十二回日本水大賞」の各賞を受賞された皆様、誠におめでとうございます。

「地球エネルギー・水循環統合観測国際調整部会（CEOP/ICB）」の皆様は、地球規模ならびにローカルな水循環変動を解明する上で、国際協力に基づく水循環観測体系とデータ利用体系の確立が不可欠であるとの認識のもとに、世界初の統合的水循環観測体制の確立を推進し、多大な実績を挙げられています。

小宮康孝様は、昭和二十二年のカスリーン台風による氾濫の際、父が事前の備えで被害を最小化した経験を活かし、伝統工芸を守る自主防災の取組を父から子への三代にわたり継承し、地域住民の自助意識向上を啓発する活動を続けられています。

このような皆様の高い志と着実な活動が高く評価され、今回の受賞につながったものと思います。

現在、都においては、水と緑の回廊で包まれた美しいまち東京の復活や気候変動がもたらす影響へ対応した災害に強い都市づくりを目標に掲げ「十年後の東京」計画を策定し、東京がさらに成熟した都市となるよう全力を挙げて取り組んでいます。

受賞された皆様方におかれましては、今回の受賞を契機に、益々ご発展ご活躍されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成22年7月1日

東京都知事 石原 慎太郎

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

「第12回日本水大賞奨励賞」を受賞された美しい山形・最上川フォーラムの皆様に、心からお祝いを申し上げます。

今回の受賞は、最上川の水質調査、清掃活動から、ゴミを出させない発生源対策へと活動を段階的に発展させ、水環境全体の美化に努められた御功績が高く評価されたものと思います。

山形県では、本年3月に「第3次山形県総合発展計画」を策定し、「緑と心が豊かに奏であい 一人ひとりが輝く山形」の実現に向けて、県民との不断の対話を進めるとともに、多様な主体との協働を進めながら、県づくりに取り組んでいるところです。

その中で、貴団体の県民、NPO、事業者、大学及び行政機関との連携による取組みは、県民の水環境に対する愛着や問題意識を喚起し、「美しい県土づくり」へ向けた気運を醸成するものであり、協働の促進、ボランティア活動等の拡大にも寄与する大変意義深いものと考えます。

今回の受賞を契機として、美しい山形・最上川フォーラムの皆様の活動の輪がさらに大きく広がり、今後ますます発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成22年7月1日
山形県知事 吉村 美栄子

「第12回日本水大賞奨励賞」 受賞祝辞

6月、用水路沿いには紫陽花の花が咲き、水車が回って、早苗がきらきら輝く田んぼに水をくみ上げていく。

4基の水車と川と山、田んぼと畑と人の住まいが織り成す、巖木川一帯の美しい風景は、自然と人が共に生きていることを感じさせてくれます。

「自然と暮らしを考える研究会」の皆さまが、江戸時代から伝わる地元の町切水車を復元され、地域住民と一体となって子どもたちが自然体験をする機会を創りだされている活動は、自然と人、人と人とのつながりを再生する貴重な取り組みだと思えます。

このたびの受賞は、かつて川で遊び、自然の怖さとすばらしさを体感してきた世代である「自然と暮らしを考える研究会」の皆さまが、その経験と知恵を十分に発揮され、大切な水の文化を次の世代の子どもたちに伝えていることが高く評価されたものです。

「水積もりて川を成す」と申します。一基の水車の復元から始まって、子どもたちとの学習や美化活動を続けていくことにより、訪れる人が増え、昨年、近くに農村公園が整備されたように、これからも皆さまの活動の日々の継続が積み重なって、ふるさとの水を取り巻く環境を守る活動がますます大きな流れとなることを期待いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成22年7月1日
佐賀県知事 古川 康

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

第12回日本水大賞審査部会特別賞を受賞された「利根川源流讃歌」発表・実行委員会の皆様へ、心よりお祝い申し上げます。

「利根川源流讃歌」発表・実行委員会の皆様におかれましては、9年間にわたり、発表会や様々なイベントにおいて、「利根川源流讃歌」及び「奥利根水源地憲章の歌」を通じ、川やダム、水の大切さの啓発に尽力されています。この度の受賞は、こうした活動が利根川上下流の多くの人々に共感を与え、利根川源流の保全意識の向上に大きく貢献されていることが、高く評価されたものです。

群馬県は、首都圏の水瓶と呼ばれる水源県であり、利根川の水源地の大切さを県内外に訴え、守っていく責任があります。こうした中、行われている貴団体の取り組みは、大変意義深いものと考えており、今後も末長く活動を継続していただき、より一層活躍されることを御期待いたします。

結びに、「日本水大賞」関係者の皆様の御尽力に厚く御礼申し上げますとともに、受賞者の皆様の今後ますますの御発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

平成22年7月1日
群馬県知事 大澤 正明

祝 辞

「第12回日本水大賞・審査部会特別賞」を受賞されました財団法人水島地域環境再生財団の皆様へ、心からお祝い申し上げます。

財団法人水島地域環境再生財団におかれましては、「地域から学び、歴史を伝え、人々をつないで、健康で豊かなまちをつくりだす、環境再生・まちづくりのセンター」として、隠れた環境問題である「海底ゴミ」に着目し、その実態把握調査などに長年取り組まれ、地元瀬戸内海の良い環境の保全や循環型社会の構築に大きく貢献されました。このことが高く評価され、今回の受賞につながったものと思います。

現在、岡山県では、「快適生活県おかやま」の実現に向けて、県政運営の基本方針「新おかやま夢づくりプラン」の着実な推進を図るため、多様な主体と連携し、自立と協働を基調とした施策・事業を展開しているところであり、皆様方の活動は誠に心強い限りです。

今回の受賞を契機として、瀬戸内海における皆様の活動の輪がなお一層広がり、今後ますます発展することをお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成22年7月1日
岡山県知事 石井 正弘

受賞者へお祝いの言葉

「2010 日本ストックホルム青少年水大賞」祝辞

静岡理工科大学静岡北高等学校科学部水質班の皆さん、「2010年 日本ストックホルム青少年水大賞」の受賞おめでとうございます。

今回の受賞は、水域の酸欠状態などを招くホテイアオイの大繁殖のプロセスを明らかにした皆さんの御研究が、水域の汚染・浄化のメカニズムの解明に大きく貢献すると評価されたものと伺っており、心から敬意を表します。

21世紀は「環境の世紀」そして「水の世紀」といわれます。また、私たちの“ふじのくに”静岡県は、天竜川、大井川をはじめとする日本有数の河川、日本で最も深い駿河湾、柿田川の清らかな湧水に象徴される富士山麓の伏流水など、様々な姿の水に恵まれた“みずのくに”であるといえます。本県の次代を担う皆さんの研究成果は“みずのくに”静岡県における今後の環境施策に大きく寄与するものと期待しています。

ストックホルムにおける国際コンテストにおいても、どうか皆さんの素晴らしい御研究を堂々と発表してください。

今回の受賞を機に、静岡理工科大学静岡北高等学校科学部水質班の皆さんの御活動がますます発展されることを祈念して、お祝いの言葉といたします。

平成22年7月1日
静岡県知事 川勝 平太

2010日本ストックホルム青少年水大賞 受賞祝辞

埼玉県立松山高等学校生物部の皆様、「2010日本ストックホルム青少年水大賞優秀賞」の受賞、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

このたびの受賞は、酵母菌及び透析膜による六価クロムの三価クロムへの還元及び三価クロムの回収についての研究を重ね、六価クロムにより汚染された土壌・地下水の浄化の可能性を示したことが、高く評価されたものであります。

近年、土壌や地下水についての調査の進展に伴い有害な化学物質による汚染が確認される事例も増加しています。

埼玉県では、河川水や地下水を水源とする飲用水や農業用水などの安全を確保し、県民の健康被害を防止するため、汚染の未然防止に努めるとともに、汚染の拡散防止や浄化対策に取り組んでおります。

こうした中で、皆様がこのような栄えある賞を受賞されましたことを、大変心強く思います。今後の研究活動により、さらに大きな成果を達成されますことを心から期待しております。

今回の受賞を機に、埼玉県立松山高等学校生物部の皆様がますます御活躍されることをお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

平成22年7月1日
埼玉県知事 上田 清司

受賞者へお祝いの言葉

祝 辞

「2010日本ストックホルム青少年水大賞審査部会特別賞」を受賞された千葉県立柏中央高等学校化学部の皆様に、心からお祝い申し上げます。

この度、皆様が研究された手賀沼は、印旛沼とともに千葉県にとってかけがえの無い水辺空間です。しかし、水環境の悪化が甚だしく、水質を浄化し水循環の健全化を図ることは重要な課題となっており、千葉県では、沼内に水生植物の生育を促進する植生帯整備を始め、流域市町村や関係機関と連携した様々な浄化対策を進めているところです。

皆様は研究にあたり、手賀沼に精通した地元漁師の方々への聞き取りや長年にわたる水質調査といった地道な取組みを着実に積み重ねていく一方で、リサイクルガラスを活用した光触媒による斬新な水質浄化手法にも着目するなど、その柔軟で積極的な姿勢には賞賛に値するものがあり、今後の研究の成果に大きな期待を寄せております。

今回の受賞を契機に、若い皆様がより一層、高い理想と目標を掲げ、様々な分野に果敢に挑戦されていくことを心から期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成22年7月1日
千葉県知事 森田 健作